

令和6年度第2回佐賀市立図書館協議会 議事録

開催日時: 令和7年3月21日(金) 14時30分~15時30分

開催場所: 佐賀市立図書館2階 多目的ホール

出席者: 【委員: 9名】

白根会長、家永委員、荒木委員、大塚委員、原田委員
梅崎委員、高原委員、井上委員、福田委員
(欠席: 堀川委員)

【事務局: 8名】

八谷館長、増本副館長、江里口サービス一係長、中島サービス二係長、
宮崎大和分館長、大塚諸富分館長兼川副分館長、
江頭東与賀分館長兼久保田分館長、副島富士分館長兼三瀬分館長、

【傍聴者: 3名】

1. 開会

2. 館長挨拶

皆さんこんにちは、館長の八谷でございます。本日は、ご多用の中、ご出席いただき、ありがとうございます。

本日の協議会でございますが、来年度、令和7年度の主な事業計画等を説明させていただきます。委員のみなさまからの御意見や御審議を賜り、市民と共に育つ図書館として、事業を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

また、図書館大規模改修におきましては、現在、基本設計を行っております。本日は、1階や2階の考え方やゾーニングの素案について、説明をいたします。これから30年先も、多くの市民に利用され、愛され続ける図書館になるよう、設計を進めているところでございます。みなさまからの多数のご意見を頂戴できればと思っております。

令和7年度も市民に寄り添った、図書館サービスのさらなる充実につなげていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

3. 協議会

(1) 会長挨拶

(白根会長)

委員の皆様、今日はお忙しいなか、足をお運び頂きましてありがとうございます。

今日はとても暖かいです。数日前は雪が降ったところもありました。気候も世界情勢も国会も乱調ということで、本当に予測不能な時代になっているような気がします。

そのような中で、図書館の存在というのは大変重要だと思っておりますが、なかなか図書館というシステムの重要さというのは一般認知されにくい状況にあるかなと思います。

その点で、この佐賀市立図書館の今度の大規模改修によって、多くの市民が図書館というもの

に目覚めてくれればいいなあと期待しているところです。

(2) 議事

① 前回協議会報告

【事務局からの説明】

(事務局)

- ・前回協議会は、令和6年9月11日に開催された。
- ・議題については、「前回協議会報告」、「令和5年度の図書館事業報告」、「令和6年度重点事業の経過報告」であり、内容は、別紙議事録のとおりである。
- ・前回の協議会でいただいた意見への対応状況については、協議会資料の4ページから5ページに記載している。
- ・(1) 外国語の利用案内については、市の国際課、佐賀県国際交流プラザ、佐賀大学等に、日本語版と複数の外国語版の利用案内の設置依頼を行った。
- ・(2) 館内案内の多言語/やさしい日本語対応については、トイレの緊急呼出ボタンについて、流水ボタンと誤認されて押されることが多いため、「水を流す」ボタンと「緊急呼び出しボタン」について、ふりがなと英語表記を行った。児童コーナーの表示において、漢字熟語などわかりにくいものについては、やさしい日本語へ表現を変えてひらがな表記とした。
- ・(3) わかりやすい案内表示については、子どもに職員がわかるように、「聞きたいことがあるときは青いエプロンのひとにきいてね」という表示のイラスト入りポスターを児童カウンター前面に掲示した。児童カウンターに掲示している「こども相談カウンター」の案内をわかりやすい内容に変更した。天井から下げている表示「児童郷土」「SF・推理小説」などが漢字で書かれているので、フリガナをつけたり、わかりやすい日本語の表示を作成したりする予定。
- ・3. 継続対応中の案件については、協議会資料の5ページから6ページをお願いする。こちらについては、前回から対応状況の変更点はないため、説明を省略させていただく。
- ・4. 大規模改修に関する意見については、協議会資料の6ページから7ページをお願いする。前回の意見としては、佐賀県出身の建築士のことや、楽しさが出てくる図書館についてご意見をいただいた。これらについては、大規模改修において考慮し、検討させていただきながら取り組んでいく。

【質疑・意見】

(委員)

- ・前回協議会での意見に対して、エプロンのひとにたずねるポスターを作っていただきお礼をいただいた。

(白根会長)

- ・前回協議会で外国語資料が5,000点ほどあるが利用が少ないと聞いた。コンビニなどに多言語の資料が図書館にある旨のチラシを置いてもいいのではないかと。

②令和7年度佐賀市立図書館事業計画について

【事務局からの説明】

(事務局)

- ・「令和7年度 佐賀市立図書館事業計画」について説明する。資料8ページの中ほどに「令和7年度の重点事業」を掲げている。
- ・二重丸の「電子図書館システム運用管理事業」と「本館大規模改修事業」、そして、その下の4つの白丸を合わせた6つの事業を「令和7年度の重点事業」として実施していく。
- ・これらの事業については、資料15ページから20ページに事業の実施目的や課題、留意点などを記載した「令和7年度佐賀市立図書館重点事業管理票」に基づき、進めていく。
- ・時間も限られているため、重点事業の中でも特に優先すべき二重丸の「電子図書館システム運用管理事業」と「本館大規模改修事業」について説明する。

○「電子図書館システム運用管理事業」(P18)

- ・一昨年、令和5年6月から、佐賀市電子図書館の試験導入を行っている。
- ・佐賀市電子図書館は、「図書館への来館や紙の書籍の利用が難しい人へのサービスの充実」という観点で、特に「全ての子ども達が、障がいの有り無しに関係なく、気軽に読書に親しめるようになる」ことを目指す姿としている。
- ・そこで、掲載する資料は子ども向けのものを中心に選書を行い、また、市立の小中学生には専用のアカウントを全員に発行して、さらに、学校で使用するパソコンには、デスクトップ画面に佐賀市電子図書館のショートカットを設けて、いつでも簡単に利用できるようにしている。
- ・電子書籍の所蔵数については、試験導入開始時は商用電子書籍が約450点、郷土資料や行政資料などの独自資料が約1,000点だったが、現在は、商用電子書籍が825点、独自資料が1,085点となっている。
- ・商用電子書籍が大幅に増加した理由は、企業や団体からの寄付によるものである。
- ・令和5年度は株式会社エンターアイ様と佐賀銀行様から33点、本年度は佐賀南ロータリークラブ様から190点の寄付をいただいている。
- ・利用状況については下の成果指標欄のとおりである。本年度は12月時点で、既に前年度の利用実績を超えている。
- ・2年間の試験運用で、事業の方向性や取り組み方などが分かってきたので、引き続き電子図書館システムは運用していくこととした。
- ・なお、運用にあたっては、重点事業管理票の上の方、「本年度の事業を進めていく上での課題や留意点など」に記載のとおり進めていく。

○「本館大規模改修事業」(P19)

- ・本年度の第1回の協議会で、基本構想・基本計画を示し、経過報告を行ったが、本日はその後の状況について報告と説明をする。
- ・昨年10月に基本設計等業務委託についての公募を行い、4つの共同企業体から参加表明がなされた。

- ・公募要領に基づき、まず図書館と建築住宅課による書類審査で3つの企業体に絞った。次に、市職員2名と外部の有識者3名で構成する審査委員会により、対面形式でのプレゼンテーション審査を実施して、最優秀提案者を決定した。
- ・最優秀提案者は「青木茂建築工房・乃村工藝社・poco a bocca・ARP共同企業体」で、業務委託契約を締結して事務作業に入っている。
- ・現在、建物の改修にかかる基本設計の協議を進めるとともに、リニューアル後の図書館に新たな利用者呼び込みのための機能や体験の導入、ソフト面の充実、施設の柔軟な運用など、建物管理とサービス提供に関する管理・運営についての方針策定に向けた調査を行っている。
- ・本日は、追加資料として配布した「SAGA LIBRARY PARK(佐賀市立図書館大規模改修)基本設計ゾーニング(素案)」に沿って、基本設計の考え方とゾーニングの素案について説明する。
- ・基本設計の考え方については、基本構想・基本計画を踏まえて、「佐賀市の未来を育む図書館」「サードプレის的な居場所」となるように設計を進めていく。
- ・基本設計における市民の声への対応について、屋内は椅子やベンチの配置でゆっくりと過ごせる空間を生み出すことや、子ども連れで過ごしやすい環境づくりなど、屋外については、公園と図書館の往来をスムーズにし、北駐車場からの利便性の向上などに対応していく。
- ・1階と2階の考え方について、1階は公園や外部と接するため、おしゃべりなどが許容され、賑わいのある空間として、多様な人が自由に集い、のびのびと過ごせるサードプレისとしての場所にしていきたい。特に、新たな利用者を生み出すために、本だけでなく、モノやコト、ヒトと出会える場所であり、出会いや体験を通して、本に興味を持つきっかけを生み出す場としていきたい。
- ・2階は、これまでの図書館の魅力を引き継ぎ、集中して本と向き合える静かな場所としたい。本を中心としたフロアにし、知の宝庫としての役割を担う。
- ・各階においては、本を好きにさせてくれる「知」を創り出す4つの要素として、情報や本、ヒトに出会う「きっかけ」を作る場、「体験」や活動を育む場、活動を発表して「興味」につながる場、次の興味へとつなげる「実践」の場を配置していく。
- ・2ページからは、ゾーニングの素案を記載している。建物全体として大きく変わる予定は、太字の部分であり、出入口やエレベーターの場所を変更すること、中央に階段を設置し2階への自然な流れをつくること、にぎやかなスペースを出入口付近に配置すること、公園や道路が見える窓側に椅子やベンチを配置することである。
- ・まず、1階部分について説明する。1階はサードプレისとしての役割を担い、人が集まり、おしゃべりができる場を配置する。上(北側)の真ん中、北駐車場側にメインエントランスを新たに設置することで、北駐車場からの出入りが便利になる。
- ・エントランスを入ったすぐの黄色部分にはカフェを配置し、図書館にくるきっかけをつくる。友人と飲み物を飲んだり、おしゃべりしたり、ゆっくりと過ごせる場と考えている。
- ・また、左側のブルーの場所は、子どものコーナーを配置し、駐車場から入ってすぐに本に触れ合えたり、親子で会話を楽しんだりできるようにする。
- ・エントランスから目につきやすい位置にエレベーターを設置する。黄色のカフェの下あたりの四角部分がエレベーターの設置場所である。入ってすぐにエレベーターが目につくことで、体の不自由な方やお子様連れの方など、スムーズに2階へ移動できるようにしたい。

- ・エレベーターの右側の三角は、公園側の出入口を移動して新たに設置するものである。公園との行き来がスムーズになることで、一体的な利用を見込めるようになる。
- ・公園側のブルーの部分は、モノづくりなどの体験活動などができる場所である。公園側に配置することで、公園利用者にも興味を持ってもらえるようにする。また、例えばモノづくりをした後、公園でそれを利用することなども想定している。
- ・資料の下の黄色の場所は、色々なイベントや発表に使える多目的スペースである。現在の東玄関は封鎖し、先ほどの公園からの出入口に統一することを想定している。
- ・ピンクの場所はティーンズコーナーで、若者向けの情報や雑誌、本などを設置し、交流の場として、図書館に来るきっかけを創り出したいと考えている。
- ・1階は、全体的に背の低いゆとりある書架とゆっくりと過ごせるような椅子やベンチを配置して、自由にのびのびと過ごせる空間をつくっていききたいと考えている。1階から2階への移動は、中央の緑色、現在の中央の吹き抜けにらせん階段を設けて、2階への流れを作りたい。イメージは4ページのとおり。
- ・3ページに戻り、2階部分を説明する。2階はこれまでの図書館を引き継ぎ、たくさんの本と向き合える場所となる。ゆっくり、集中して本が読めるように椅子やベンチを配置する。
- ・特に眺めのいい窓側、公園側や歩道側では、自然を感じながら本に親しむことができるようにする。右下のブルーの場所は、グループ学習やテレワーク、複数人でのミーティングができるスペースとし、左下の緑色の場所は、読書や勉強に集中できる静かなスペースに、右上の黄色の場所は、市民の学習や活動の成果を発表できる展示スペースとしている。
- ・ピンク色がメインカウンターである。1階にもカウンターを設けるが、そちらは主に子どものコーナーの対応とし、調べものなどの市民の皆さんからの様々な問い合わせにはこちらで対応する。2階部分の説明は以上です。
- ・なお、対面朗読室やボランティア室については、現在、効果的な設置場所について協議中である。
- ・最後に、図書館と公園のつながりについて、4ページが一番下の図をお願いする。
- ・図書館内の公園側には椅子やベンチを置き、木々や自然を感じられるようにする。公園と隣接する部分については、マルシェイベントなどが気軽に実施しやすくなるよう、電源や水場等の環境整備を行う。また、椅子の貸出等により、公園との一体的な利用を生み出していきたいと考えている。
- ・ゾーニングの素案については、職員だけでなく、皆様や市議会等の意見等を伺い、その意見を検討して、反映につなげていきたい。

○令和7年度イベント企画書（冊子資料）

- ・令和7年度に実施予定の本館、各分館、分室における様々なイベントを記載している。
- ・事業計画で成果指標とする図書館サービスの充実度や満足度の向上に向けて、本館、分館、分室において、様々な企画を考え実施していく。
- ・委員の皆様にはぜひイベントに参加いただき、また、ご家族やご友人へのお声掛けや情報発信についてもお願いしたい。

【質疑・意見】

(委員)

・まずお礼をいいたい。開催通知が2か月前、資料が1か月前に届いたので、十分目を通ず時間があつた。重点項目を絞り込んだのもいいと思う。

(委員)

・図書館資料の分類や検索はリニューアル後どうなるのか。

(事務局)

・分類は日本十進分類法を基本にしながら、テーマ展示などしながら魅力的に見せていきたい。

(委員)

・書架のイメージがわからないのでお尋ねした。

(事務局)

・現在検討中であり、1階は低い書架、2階は高い書架、開架率 50%と考えている。閉架も増える。見せ方を工夫して本に興味を持ってもらえるようにしていく。

(委員)

・お洒落でオープンになっている。リニューアル後はたくさんの方が来ると思うが、人員はこのままか。

(事務局)

・今後協議していく部分。IC タグの導入も検討中であり、人員についても今後協議していく。

(委員)

・春休みになるが、公共の場所が安全とは言えない。学校では気をつけるよう指導があつている。有料の、監視があるラウンドワンなどに行くようになっている。監視の目は必要。図書館でPTAや自治会などを開催し、市民の力を借りて、市民の目を増やしてほしい。

(事務局)

・現在30分おきに職員と警備員で巡回している。

(白根会長)

・ボランティアを導入し、簡単な案内、司書と市民をつなぐようなボランティアがあつてもいいのでは。

(事務局)

・ボランティア募集については、活動がわかるようにするなどを検討している。令和6年度はリユース本の譲渡会でボランティアを活用した。リニューアル後も検討したい。

(委員)

・ボランティア活用については、資料に記載があつた。まさに図書館の方向性にあつた取り組みである。ボランティアをすると図書館のファンになる。ぜひ続けてほしい。

(事務局)

・昨年11月の譲渡会で募集した。令和7年度も募集したい。

(委員)

・佐賀新聞の読者欄に、書店との連携の意見があった。図書館はきっかけであり、欲しい本は書店に繋げていく。そういう方策を考えてほしい。佐賀乃書店の本間さんはたぶん協力してくれるのでは。

(事務局)

・リニューアル後は、書店との連携を考えていきたい。

(委員)

・子どもに声をかけると保護者にハッとされる。名札などでボランティアだとはっきりわかると、子どもとも関わりが持ちやすいのではないかと思う。

(事務局)

・参考にさせていただく。

(白根会長)

・全体を通して質問はあるか。

(委員)

・図書館の大規模改修には期待している。図書館職員の研修はどう考えているか。司書の採用枠がない。一人でも専門職を増やしてほしい。多様化する図書館の核になる人いないと宝の持ち腐れになる。研修をきちんとしながら専門職を確保してほしい。

(事務局)

・研修はオンラインなどを活用しながら、希望者を募集しながら参加している。参加したくてもシフトの問題もあるので、できるだけ調整して参加させている。改修工事の休館中にも研修を計画したい。職員は司書資格のある職員の配置を希望している。すぐ異動せず5~6年は配置するよう要望はしている。現在、5~6名は司書資格を持った職員がいる。資格を活かして業務にあたっている。

(委員)

・市立図書館の接遇は日本一だと思っている。自動貸出機が確か3台あるが、自動貸出機の利用を推奨しているのか。

(事務局)

・利用を推進していきたい。リニューアル後はICタグを入れて推進していきたい。

(委員)

・自分でも貸出手続きができた。

(白根会長)

・お急ぎの方には自動貸出機の利用を案内してもよいのではないか。

(委員)

・顔がわかりにくい。ホスピタリティを上げるには、人が出てくる仕掛けがあるとよいと思う。

(事務局)

・いろいろと考えていきたい。

(白根会長)

・司書資格を持つ職員は何年いるのか。

(事務局)

・決まりはない。部署を異動し行ったり来たりする。通常3年経過すると異動対象となる。長く置いて欲しいと要望はしている。

(白根会長)

・司書は経験が大事。資格のある職員を含め体制が取れるとよい。

(委員)

・本を読まなくなった。最近ではオーディオブックを使っている。運転したりジョギングしたりしながら聴いている。オーディオブックの貸出があるとよい。他の図書館ではないのではないか。先進的取り組みとして注目を浴びるのと思う。

(事務局)

・導入状況などオーディオブックに関する知識がないので調べたい。

(事務局)

・朗読のCDはある。

(委員)

・オーディオブックを使っている。夏目漱石の『こころ』は長くて13時間もあった。本を借りようと思ったが厚くて、読みやすい本を探してもらったら、中学2年生向けの本を出してくれた。非常によかった。

(白根会長)

・他に意見や質問がなければ協議会を終了したい。本日の議事については全て承認としてよいか。
・特にご意見がないようなので、これで承認としたい。

(事務局)

・次回の図書館協議会は、令和7年8月頃を予定している。日程等詳細が決まり次第、連絡を行う。